

アスリートに聞く！
～スポーツとカラダづくり～

世界のスポーツ『ケイリン』で ダイナミックに駆け抜ける！

リオパラリンピック自転車競技のパイロットとして

銀メダルを獲得した田中まい選手。

現在は地元である千葉競輪場を

ホームバンク（練習拠点）に

ガールズ競輪で活躍する彼女に、

自転車競技に懸ける思いを伺いました。



ガールズ競輪選手
（日本競輪選手会千葉支部所属）
リオデジャネイロパラリンピック女子タンDEM
個人ロードタイムトライアル
（パラアスリート鹿沼由理恵選手のパイロット）
銀メダリスト

※パイロットとは、二人乗り自転車の前部座席・晴眼者

田中まいさん

父の仕事の影響で 高校から自転車競技をスタート

私が小学生の頃、競輪選手だった父の仕事について何となくわかっていたはいましたが、私が知っている父は「一緒に遊んでくれる優しいお父さん」という一面だけでした。しかし、私が中学生のとき、父の引退レースを初めて会場を見て、厳しい世界で闘うその姿に尊敬の念を抱いたのです。子ども心に「すごく格好いい！」と衝撃を受けました。



イメージ写真

自転車に乗るときは、
ヘルメットとグローブを着用しましょう！



そんな父の姿を追って、高校では自転車競技部に入部。初めて競技用自転車にまたがった時、ひと漕ぎです。そこから、あつという間に自転車競技の面白さに引き込まれていきました。

◆42年ぶりにガールズ競輪が復活！ プロへの道が拓けた

私が高校生の当時は、女子のプロ選手登録のない時代。男子部員は日本競輪学校（現日本競輪選手養成所）を受験するなど、プロの道へ進むための準備を着々としているのに、私にはその選択肢はありません。悔しくて「なんで男に産んでくれなかったのか」と両親に辛く当たったこともありましたが、それでも自転車が好きで競技を続けていたところ、大学3年生の時にガールズ競輪が復活することに。狭き門である競輪学校に合格後、さらに練習に励み、競輪選手としての国家資格を取得しました。



ケイリン
自転車競技は、第1回1896年アテネ五輪より実施されており、2000年シドニー五輪からは「ケイリン」として正式種目となる。

念願が叶い、プロになることができたデビュー戦大勢の観客の前で初めて走路に入るときワクワクした気持ちは、今でも鮮明に覚えています。

◆パートナーの夢を叶えるために 覚悟を決めたリオへの道

パラスリートの鹿沼由理恵選手とともに、リオデジャネイロパラリンピック（以下パラ）を目指すことになったのは、競輪選手としてデビュー間もない頃でした。実は、競輪とパラを目指すことの両立が難しく、一度はその挑戦から離れたこともありましたが、しかし、鹿沼選手の熱意に押され、再びタッグを組むことに。「引き受けるのであれば、彼女のためにも自分のためにも覚悟を決めよう」と競輪を休業し、パラの練習に専念しました。結果、ロードタイムトライアルで銀メダルという結果を残せたことは本当に嬉しかったですし、かけがえのない経験をさせていただいたと思っています。

◆競輪選手として1着を目指す それが次の自分の目標

パラ挑戦の後、「次は自分のやりたいことで夢を叶えてみたら？」と大学時代の監督から声をかけられた時、直感的に頭に描いたのは東京オリンピックではなく、競輪選手として活躍する自分の姿でした。デビューから7年が経ち、戦術の幅も広がり、臨機応変に戦えるようになってきました。でも自分の納得できるレベルにはまだまだ至っていません。「競輪でもっと強くなりたい、もっと1着をとりたい。」それが私にとっての喜びであり、新しい目標なんだと、改めて強く思うようになりました。



リオデジャネイロパラリンピックで獲得した「銀メダル」

今、2020年の完成に向け、千葉競輪場は新しく『千葉公園ドーム』として生まれ変わるうとしています。このドームは国際規格の自転車競技場で、競輪はもちろんその他の自転車競技も行える環境になります。ヨーロッパのように、自転車競技がもっと「スポーツ」として親しまれ、若い方を含めたくさんの皆さんが気軽に足を運べるような場所になってほしいと願っています。

そのためにも私ができるのは、ガールズ競輪を盛り上げていくことです。自転車競技の持つ迫力や時速60キロを超えるスピードを実際に見ていただき、メジャーなスポーツとして確立させていくことです。地元千葉の皆さんに、今以上に格好いいレースを見せられるよう、頑張っていきたいと思っています。ぜひ応援してください！

読者プレゼント



サイン色紙.....3名様

応募方法は、医師会インフォメーションをご覧ください。

■1989年12月25日生／出身地：千葉県千葉市／自転車競技歴：2011年全日本学生選手権トラックレース大会3km個人追抜き競争優勝・全日本学生選手権個人ロードレース大会優勝・全日本学生個人タイムトライアルロードレース大会優勝・ユニバーシアード（世界大学選手権大会）3km個人追抜き競争7位入賞・2016年リオデジャネイロパラリンピック銀メダル